

創造工学研修履修者へ

北京科技大学（中国）との共同研修参加者募集

創造工学研修では、2006年より本年9月まで16回にわたって中国・北京科技大学（University of Science and Technology Beijing: USTB）との合同発表会を実施してきました。例年、10～15名程度の創造工学研修履修者がUSTBの間で相互訪問し（3月北京、9月本学）、発表会を行っています。USTBは本学博士課程出身の教員が副学長、学院長をはじめとして多数在籍している中国の有力大学であり、本学工学部と極めて緊密な関係にあります。

本プログラムでは、参加者全員が、「創造工学研修で実施したテーマ」、または、「日中相互の学生の学術的関心テーマ」について、その内容をパワーポイントスライドを使いながら英語で発表・質疑を行います。発表時間は質疑応答を含めて10分程度です。優秀発表者は双方から1名ずつ、表彰を受けます。発表内容の検討とスライドの作成に当たっては、事前にUSTBのパートナー学生とネットを通じて協力しあいながら作業を進めます。英語はnative speakerを含む教員数名が指導にあたります。

平成28年度春季（第17回）は、以下のようなスケジュールで実施予定です。

3/8(水) 各自東京まで移動

3/9(木) 羽田空港集合 中国渡航 NH961便 羽田9:25発 北京12:35着

3/10(金) 合同研修（発表会）

3/11(土) USTBキャンパス見学、北京市内研修（万里の長城、故宮等）

3/12(日) 帰国 NH964便 北京8:30発 羽田12:45着

旅費、滞在費等の総経費は、例年11～12万円ですが、工学部より約10万円余の補助を支給予定です。支給額は参加人数等で多少変動します。

本プログラムの目的のひとつは、学部低学年のうちに国際会議を擬似体験し、グローバルセンスを磨く契機にして頂きたいということです。実際、過去の参加者は、北京研修終了後も自主的にUSTB学生と連絡を取り合ったり、本学が実施している他の海外大学との交流プログラムに参加するなど、国際リーダーの素養育成に貢献しています。

本日より、平成28年度（第17回）参加希望者の募集を行います。参加者は、応募者の中から所属学科、担当テーマ実施学科、男女比のバランス、申し込み順、メールでの対応内容等、を考慮して引率者が決定します。希望者は、① 氏名（性別）、② 学籍番号、③ 創造工学受講テーマ名 ④ 志望動機（博士課程進学意思の有無、国際交流経験など）、をPCメール（携帯メール不可）にて引率教員の長坂教授（材料科学総合学科）までご送付ください。ご不明な点は適宜お問い合わせください。選考結果は12月初旬までに直接メールにて通知します。なお、メールの書き方とレスポンスの良し悪しを判断基準のひとつにさせてもらっていますので、連絡があった場合には迅速な対応をお心がけてください。大学院博士課程への進学を検討されている方は優先したいと考えております（必ず博士課程に進学することを条件にしているものではありません）。北京訪問チームには、教員3～4名の他、過去の研修（第15、16回）のメンバー数名（現2、3年生）が同行し、アドバイスをしてくれます。なお、次回第18回は、平成29年9月に本学で開催予定であり、第17回メンバーとして北京を訪問される方は、第18回の受け入れチームメンバーになって頂きます。

メール送付先

t-nagasaka@m.tohoku.ac.jp （長坂）

795-7300（長坂） 795-7305（伊藤秘書）

申込締切：平成28年12月9日（金）17:00



The USTB Program: How was it?

このプログラムでは、個々人の興味を元にテーマを選択することができ、それを元に研究室を紹介してもらう事ができます。先駆者である先輩や先生方から直接教えてもらう事のできるいい機会です！研究室の扉を叩く勇気が出ない、そんなあなたのためにこのプログラムは扉を叩く理由になってくれることでしょう。

春と秋の研修を通してゲスト国(訪問側)・ホスト国(もてなす側)を意識するようになりました。特にUSTBの学生が東北大を訪れる秋の研修では、日本を楽しんでもらえるよう自由時間にドラッグストアや駅ビルのショッピングツアーを計画しました。海外の人が日本で何を期待するのかを考える視点を持たたのは貴重な経験になりました。

1年生のうちから北京研修でプレゼン発表を練習していたことについて、後になってとてもためになったと思います。スライド作りは数回くらいしかしたことがなく、理系の研究発表のプレゼンなんて全くやったことがない状態でした。研究室のM1(当時)の先輩が理系のプレゼンのルールからスライドの作り方などを教えてもらい、この時点でも多くのことを学びました。また、さらに英語を勉強することから、実際に使うという経験ができました。Lizにpowerpointを添削してもらい、英語で内容を話す練習をした経験は、とても価値のあるものだと思います。

大学に入る前は海外に行くことへの抵抗感がありました。けれども、実際に北京研修を通じて、文化が大きく異なる人との交流に抵抗が少なくなったと思います。北京研修で海外の人の異なる価値観を知るという経験があったからこそ今、留学していると思います。

INTERESTED? Contact me! LIZ
e-webeck@material.tohoku.ac.jp



I still keep in touch with my USTB friends on social media. FacebookなどのSNSで今も連絡を取っています。1年生の春に出会ったメンバーとは、2年生の夏と春に参加した際にも再会でき、より深い関係を築けた気がします。また、今年の夏には春に出会った新しいメンバーと再会し、改めて交流を深められました。

普通の学生生活でも英語や専門分野をそれぞれ学ぶことはできますが、このプログラムでは、専門分野を英語で発表する、また、そのための準備をすることで、より実用的な英語を学ぶことができ、専門分野の理解を深め、研究活動の一端を経験することができます。特に1年生は、まだ専門科目をそれほど履修してなく、研究活動や、専門分野についてのイメージが確立していないと思うので、このプログラムは価値があると考えます。

The Chinese students were so very kind. Though I could speak English just a little, they tried patiently to understand me. I made good friends with the Chinese students. We still keep in touch.

このプログラムは東北大学の海外研修の中で一番価値のあるプログラムだと思います。アカデミックな内容(3月は創造工学研修の内容+α、10月は各学科の卒論)を理解して、英語で発表し、質問に答えるという学会の模擬を体験できるということで、今後の研究生生活に大きく影響があると思います。1年生のうちにはイメージがわからないかもしれませんが、将来とても役に立つと思います。また、普通に過ごしていたら関わらなかったであろう人と交流を持てるということも大きいと思います。長坂先生とプログラムを行っているマテの先生方との交流が広がり、興味のある人は研究内容などお話を聞けて楽しいですし、科大の学生は日本に興味を持っている人も多く話してみるといろいろな視点で話をできます。

「日本語ですらプレゼンに自信がない！英語でなんて無理だ！」心配ご無用。
「プレゼンの授業」なんてまともないだから最初は皆同じようなもの。このプログラムで先輩や先生方からプレゼンの作り方やコツを教えてもらえば、きっと4年での卒論発表などでの自信につながる！間違い無し！

USTBの学生が積極的に話しかけてくれたのですぐに仲良くなることができました。日中の学生が同じテーブルを囲む食事は特に会話がはずみます。寮生活を送るUSTBの学生が私の一人暮らしで自炊をする話にとっても驚いていたのが印象的でした。また、中国では日本のアニメが大人気らしく私たちになじみのあるアニメの話題でも盛り上がりました。

There were many bright friends (both Japanese and Chinese). We talked about our future and our dreams.

USTBでは、普段会話すらしな(出来ない)研究室の学生や助教授、そして教授の方々から研究内容を直接学ぶ事が出来ます。いつもはただ受動的に講義を受けているだけであり勉強が全く面白いと感じなかったのですが、実際に研究している方々に直接質問したり、時には議論をすることによって、主体的に知識を深める事が出来ました。この勉強を通じて、勉強への意識がかなり変わったように感じます。

Thanks to this amazing program, I could improve my skills to speak in public and to communicate with foreign friends. These skills are SO VERY important in society. That's why I recommend this program. Join and have some fun!!

教室じゃもうグループが固まって新しい友達なんてできこない！」このプログラムは学科も学年も関係なく行われるので、そんな心配は必要ない！プログラムの時間が終われば、映画や音楽など趣味の話で盛り上がることも。(今回だと「君の名は。」の話題が多かった。)

私は研修4回目の準備期間に、初めて研修に参加するメンバーにスムーズに準備を進められるようプレゼン作成の手順や、前年の経験を踏まえたポスターセッションの指導を行いました。自分の発表だけでなくメンバーの進捗も把握しアドバイスするのは想像以上に苦労が多かったのですが、共同で活動する際に自分の役割を判断して実行する力を養うことができました。

英語で発表したり、コミュニケーションをしたりすることで国際社会における英語の重要性を痛感しました。科学者やエンジニアであっても、英語を学ぶ必要があると感じました。

